

博士前期課程 日本語学専攻 3つのポリシー

言語科学研究科は、建学の理念「言葉は世界をつなぐ平和の礎」に基づき、言語科学の観点から行われる言語研究、言語教育研究、コミュニケーション研究によって、人間理解、国際・異文化交流を促進し、社会と世界の平和と発展に寄与することを教育理念としています。この理念に立ち、人間の知的活動および社会的活動の基礎である言語(主に日本語と英語)と言語教育・言語コミュニケーションに関わる諸科学を理論と実態、理論と実践を結びつけ多角的に考究することを通して、高度な専門知識と卓越した研究能力、広い視野と多様性への理解に基づく総合的思考力と判断力、高い倫理性と強い責任感、地球社会の調和・共存に貢献しうる実践力とコミュニケーション能力を有する人材を育成します。

1. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

言語科学研究科は、建学の理念「言葉は世界をつなぐ平和の礎」に基づき、言語科学の観点から行われる言語研究、言語教育研究、コミュニケーション研究によって、人間理解、国際・異文化交流を促進し、社会と世界の平和と発展に寄与することを教育理念としています。この理念に立ち、人間の知的活動および社会的活動の基礎である言語(主に日本語と英語)と言語教育・言語コミュニケーションに関わる諸科学を理論と実態、理論と実践を結びつけ多角的に考究することを通して、高度な専門知識と卓越した研究能力、広い視野と多様性への理解に基づく総合的思考力と判断力、高い倫理性と強い責任感、地球社会の調和・共存に貢献しうる実践力とコミュニケーション能力を有する人材を育成します。

1. 入学前に修得が期待される能力

本研究科・博士前期課程・日本語学専攻での学修を希望する物に対して、入学選抜においては、以下のような能力の有無について評価します。

1. 専門知識と研究力を修得するために必要な一般的教養と学力
2. 総合的な思考力と批判的判断力
3. 多様性に対する認識、および、意思疎通や協働に必要なコミュニケーション能力

2. 入学後の学びに対する姿勢

入学後の学修については、以下のような姿勢を求めます。

1. 高度な専門的な知識と技能を修得するための主体的に取り組む姿勢
2. 理論と実態、理論と実践の関係性について深いレベルで理解しようとする姿勢
3. 広い視野に立って専門的観点から言語・人間・社会の関係性を捉えようとする姿勢
4. 社会的・文化的多様性に対する理解を深め、将来社会に貢献しようとする姿勢

3. 入学者選抜の方法

多様な学生を受け入れるために、一般入試、キャリア入試(日本語教員・社会人一般)、外国人留学生特別入試を設けています。以下の方法で、受験者の能力や姿勢を評価します。

- 一般入試および外国人留学生特別入試:書類審査、筆記試験、口述試験
- キャリア入試(日本語教員・社会人一般):書類審査、口述試験

2.カリキュラム・ポリシー(教育課程に関する方針)

博士前期課程・日本語学専攻は、ディプロマポリシーに掲げる教育目的を達成するために、以下の方針のもとに教育課程(カリキュラム)を編成し、実施しています。

1.教育内容

1. 日本語学専攻では、日本語学、日本語教育学の2コースを設け、学生のニーズに応じて、言語の構造・実態に関する研究や日本語の習得・教育に関する研究を行うことにより、高度な専門性と能力を育成するよう指導を行います。専門分野に関わる研究科目(言語研究科目群・言語教育研究科目群・言語文化コミュニケーション研究科目群)、演習科目(言語科学演習)、技術系科目(統計処理法、教育実習)を設置しています。これらの学修を通して、日本語と日本語教育・コミュニケーションに関する幅広い専門知識と研究課題遂行力だけでなく、論理的思考力、総合的思考力、コミュニケーション能力、高い倫理性と責任感が育成されるよう指導を行います。
2. 1年次の複数教員による指導(演習科目)、2年次の1名の指導教員による指導(修士研究)を通して、学生が修士研究を行い、その結果をもとに論文または研究報告を作成するための指導を行います。学生は自己の研究について発表する機会が複数回(演習での発表、セミナー発表、中間発表、ポスター発表)与えられます。
3. 日本語教育分野は、研究科目(日本語習得、日本語教育学、日本語教育教材、日本語教育文法)に加えて技術系科目(日本語教育実習)を設け、教育現場への応用力と実践力も育成します。
4. 非日本語母語話者に対しては、日本語アカデミックライティングを設け、授業のためのレポートや修士論文(修士研究報告)を作成するために必要な日本語論文ライティングの指導を行います。

2.教育方法

1. 日本語学専攻では、授業は講義、研究演習、実践演習、プロジェクトなど様々な形態で行われ、演習以外の多くの授業でも協働学習やアクティブラーニングが取り入れられています。
2. 2年次の修士研究の指導は、専門分野の相応しい教員により主に個別指導方式で行われます。学生は自己の研究プロジェクトを発表する機会(演習での発表、セミナー発表、中間発表、ポスター発表等)が複数回与えられます。

3.学修成果の評価方法

1. 各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行います。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、研究の進捗状況等を定期的に確認し、指導への連携を図ります。
2. 修士論文、修士研究報告においては、複数の審査員が、以下の評価基準に則り総合的に判断し、評価します。
 - 修士論文
 - 1)明確な問題意識に基づきテーマが設定されていること
 - 2)構成が適切に組み立てられ、論旨が明快であり、明晰でわかりやすい文章で書かれていること

- 3) 当該分野の研究を十分に理解し、適切な検討を加えていること
- 4) 適切な方法で研究資料を収集し的確な分析・考察がなされていること
- 5) 学術的な独創性・重要性があること
- 6) 研究者としての研究倫理を身につけていること

○修士研究報告

- 1) 明確な問題意識に基づきテーマが設定されていること
- 2) 構成が適切に組み立てられ、論旨が明快であり、明晰でわかりやすい文章で書かれていること
- 3) 当該分野の研究を十分に理解していること
- 4) 研究者としての研究倫理を身につけていること

3.ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本研究科の教育目的を実現するために編成された教育課程において、所定の年限在籍し、定められた要件単位を修得し、かつ、修士論文または修士研究報告の審査および試験に合格した者に修士の学位を授与します。また、修士課程を修了する者が身につけるべき知識、能力を以下のように定めます。

1. それぞれの専門分野における高度な知識に基づく研究力と、高度な専門性を要する職業に従事するための能力
2. 専門家としての責任感と倫理性を持って研究と業務を遂行する能力
3. 研究の成果と意義について客観的に把握し世界・社会に向けて発信する能力
4. 社会の要請に応えることができる総合的思考力とコミュニケーション能力

(1)専門知識と研究能力:

研究科目(言語研究科目群・言語教育研究科目群・言語文化コミュニケーション研究科目群)、演習科目(言語科学演習)、技術系科目(統計処理法)、修士研究指導、修士論文(修士研究報告)作成、中間発表、ポスター発表、等

(2)倫理性・責任感と課題遂行能力:

演習科目、修士研究指導、修士論文(修士研究報告)作成、中間発表、ポスター発表、TA 経験、等

(3)客観的思考力と発信能力:

研究科目、演習科目、修士研究指導、修士論文(修士研究報告)作成、中間発表、ポスター発表、等

(4)実践力、総合的思考力とコミュニケーション能力:

演習科目、実習科目(教育実習)、アカデミックライティング、修士研究指導、修士論文(修士研究報告)作成、セミナー発表、中間発表、ポスター発表、TA 経験、インターン経験、等